



令和7年 11月 28日(金)
静岡 大学 教育学部
附属 静岡 小学校
2年 学年だより 12月号

今までの経験をつなげた会になりました

11月10日から5日間、今年度最後の教育実習生を迎えました。つなごいの子どもたちは迎える会や送る会の準備を計画的に行い、迎える準備を整えました。その中での素敵な姿をいくつか紹介させていただきます。

迎える会に向け話し合っている際、会でどのようなことをするのかを決めることになり、子どもたちからやりたい遊びが次々と挙がりました。多くの候補の中から選ぶことになったとき、あるの子が「この中から会のめあてを達成できる遊びを選ぶんだよ。めあてを達成するためにやる遊びを選ぼう」とクラスの仲間呼びかけました。すると「たしかにそうだね！けがなしにするには…」や「みんなが楽しめる遊びは…」とめあての達成を意識した遊び決めに変わっていききました。その後、多数決はせずに意見を出し合い、時間をかけながらも遊びを決めました。みんなで意見を出して話し合ったからこそ、遊びが決まったときはみんなが納得した表情を浮かべていました。話し合い後に、子どもたちにどうして今回はこのような決め方をしたのかを尋ねました。すると、「めあてが達成できなくて悔しい思いをしたから」「多数決では誰かが悲しい思いをするから」とこれまでの経験を踏まえた発言が挙がりました。これまでの経験をつなげようとしたことや誰もが納得のいく決め方を選んだことに、子どもたちの成長を感じました。

迎える会では、子どもたちは「僕の名前は…」「休み時間も一緒に遊ぼう」と自ら実習生に話しかけたり一緒に遊んだりして楽しい時間を過ごしました。送る会では「私たちのことを忘れないでね」「大学の勉強を頑張ってね」と実習生との別れを惜しむ姿も見られました。中には「遊びの時に集合の合図があったらいいな」や「実習生への手紙はみんなで書いた方がいい気がする」など、会を振り返っている子もいました。短い期間での出会いを大切にする姿や、会をさらに良くしていくとする姿勢が印象的でした。

つなごいの子どもたちのこれらの姿から、今後の活動においてもこれまでの経験をつなげ、より良いものにしていくのだと感じています。今はつどいに向けて各学級で動き出しています。「つどいで何を伝えるか」や「伝わるようにどのような内容にするか」などについて話し合っています。また、これまでの4～6年生のつどいから、自分たちのつどいに活かしたいことについても意見が出ています。これからどのようにつどいに向かっていくのかとても楽しみです。今後も子どもたちの頑張りを支えていきたいと思っています。

